

## 技術評価報告書

申込者：株式会社クギン 代表取締役 釘宮 祐治  
愛知県春日井市春日井町字黒針 9-14  
三立産業株式会社 代表取締役 中村 仁志  
愛知県丹羽郡扶桑町柏森平塚 371

技術名称：トラストデッキ工法(2026年)  
(底板デッキ付きトラス筋を用いた鉄筋コンクリートスラブ工法)

当法人「建築構造技術審議委員会」において慎重審議の結果、2026年3月11日付けの技術評価書(SABTEC 評価 19-06R3)の通り、一般社団法人建築構造技術支援機構「建築構造技術検証要綱」で定めた技術基準と照らし合わせ、本技術は妥当なものであると判断されたことを報告する。

2026年3月11日

一般社団法人  
建築構造技術支援機構  
代表理事 益尾 潔

### 建築構造技術審議委員会

委員長	窪田 敏行	近畿大学	名誉教授
副委員長	田才 晃	横浜国立大学	名誉教授
委員	磯 雅人	福井大学大学院工学研究科	教授
〃	岸本 一蔵	近畿大学建築学部建築学科	教授
〃	田中 剛	神戸大学大学院工学研究科	教授
〃	都祭 弘幸	福山大学工学部建築学科	教授
〃	三谷 勲	神戸大学	名誉教授

### トラストデッキ工法 専門部会

主査	田中 剛	神戸大学大学院工学研究科	教授
委員	都祭 弘幸	福山大学工学部建築学科	教授



## 技術評価書

申込者：株式会社クギン 代表取締役 釘宮 祐治  
愛知県春日井市春日井町字黒針 9-14  
三立産業株式会社 代表取締役 中村 仁志  
愛知県丹羽郡扶桑町柏森平塚 371

技術名称：トラストデッキ工法(2026 年)  
(底板デッキ付きトラス筋を用いた鉄筋コンクリートスラブ工法)

技術概要：トラストデッキは、(株)クギンと三立産業(株)によって共同開発された底板デッキ付きトラス筋であり、上端筋、下端筋、ラチス筋と底板デッキで構成される。底板デッキは板厚 0.4mm または 0.5mm の溶融亜鉛メッキ鋼板(JIS G 3302 適合品)、溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金メッキ鋼板及び鋼帯(JIS G 3323 適合品)であり、ラチス筋脚部と電気抵抗スポット溶接で一体化される。トラストデッキの仮設時設計では、コンクリート打設時荷重に耐えるように設計し、本設時設計では、底板デッキの寄与を期待せず、コンクリート硬化後の床スラブとして、(日本建築学会)RC 構造計算規準 18 条「床スラブの設計」に従って設計するとしている。

トラストデッキ設計施工指針は、SABTEC 技術評価 19-06(2020 年 1 月 31 日)を取得後、SABTEC 技術評価 19-06R1(2021 年 3 月 26 日)の 2021 年版では、スパン長が調整可能なトラストデッキ、SABTEC 技術評価 19-06R2(2023 年 9 月 22 日)の 2023 年版では、働き幅 500mm のトラストデッキ、SABTEC 技術評価 19-06R3(2026 年 3 月 11 日)の 2026 年版では、新規製品タイプのトラストデッキを適用範囲に追加している。

本委員会は、一般社団法人建築構造技術支援機構「建築構造技術検証要綱」で定めた技術基準と照らし合わせ、下記の通り、本技術は妥当なものであると判断した。

2026 年 3 月 11 日

一般社団法人  
建築構造技術支援機構  
建築構造技術審議委員会  
委員長 窪田 敏行

### 記

評価方法：申込者提出の下記資料によって、技術評価を行った。

トラストデッキ設計施工指針(2026 年)、トラストデッキ製造要領書(2026 年)  
および関連試験説明資料

これらの資料には、本技術の目標性能達成の妥当性を確認した技術資料がまとめられている。この資料のほかに専門部会資料が提出されている。

評価内容：トラストデッキを構成する上端筋、下端筋、ラチス筋、底板デッキ相互間の電気抵抗スポット溶接部はトラストデッキ製造要領書(2026 年)で定める溶接強度試験の合否判定基準を満足し、トラストデッキはトラストデッキ設計施工指針(2026 年)で定める仮設時設計の要求性能を満足すると判断される。

## 技術評価内容

### 申込者

株式会社クギン  
代表取締役 釘宮 祐治  
愛知県春日井市春日井町字黒鉢 9-14  
三立産業株式会社  
代表取締役 中村 仁志  
愛知県丹羽郡扶桑町柏森平塚 371

### 技術名称

トラストデッキ工法(2026年)  
(底板デッキ付きトラス筋を用いた鉄筋コンクリートスラブ工法)

### 適用範囲

- |            |   |
|------------|---|
| (1) 異形鉄筋   | (種類) SD295 (JIS G 3112)<br>(呼び名) D10, D13   |
| (2) ラチス筋   | (材質) JIS G 3532 に適合する普通鉄線 SWM-P<br>(呼び名) 5φ, 6φ   |
| (3) 底板     | (材質) JIS G 3302 に適合する溶融亜鉛めっき鋼板 SGC400<br>(板厚) 0.4mm、0.5mm (めっき付着量の表示記号 Z08)<br>(材質) JIS G 3323 に適合する溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム<br>合金メッキ鋼板及び鋼帯 SGMC400<br>(板厚) 0.4mm、0.5mm (めっき付着量の表示記号 K08) |
| (4) コンクリート | (種類) 普通コンクリートおよび軽量コンクリート<br>(設計基準強度 $F_c$ ) 18N/mm <sup>2</sup> 以上、かつ、60N/mm <sup>2</sup> 以下  |

### 技術評価の主な審議事項

トラストデッキ工法の技術評価では、下記の3点の妥当性を確認している。

- ① 新規製品タイプトラストデッキの正負曲げ耐力、せん断耐力
- ② 新規製品タイプトラストデッキのラチス筋、底板デッキ相互間の溶接強度
- ③ トラストデッキ設計施工指針(2026年)で定める仮設時設計および本設時設計

### 技術評価の経過

2025年12月15日開催の第69回建築構造技術審議委員会(以下、本委員会と略記する)において、申込者提出の技術資料について検討し、詳細検討は、専門部会を設けて行うこととした。専門部会では、本委員会での指摘事項を踏まえて修正された技術資料について審議を行い、結果を2026年3月11日開催の第70回建築構造技術審議委員会に報告した。

建築構造技術審議委員会では、申込者提出の技術資料について慎重に審議を行い、本技術は妥当なものであると判断した。

以上